

日本あちこち河川遡行記（第265回）

奈良 1-3-1. 秋篠川 序盤 令和1年5月24日（金）快晴

先日歩いた「佐保川」の支流「秋篠川」に向かう。宮家の名前になるぐらいだから品位の高い川、地域なのだろう。近鉄「大和西大寺」駅で乗り換え「天理」行き各停に乗る。昼間は1時間に1本天理行きが有るのだ。近鉄と言えばかつての「近鉄パールズ」の強打者、「小玉明利」さんが亡くなられた。パールズはパーリーグのお荷物、ピストル打線と言われ、全盛期の南海杉浦、西鉄稲尾にはコテンパンに抑え込まれていた。何度かガラガラの森ノ宮の「日生球場」に出かけた。オールスターで全盛期の金田正一投手からホームランを打ったのを覚えている。身長173cmの小柄な体ながら安打製造機であった。同じ三塁手であるが長嶋、中西とは境遇が大違いである。



01.今回調査区間位置図



02.大和西大寺から天理行きに乗車

三つ目の駅「九条」で下車。一旦地下の上下線連絡改札口に降り、エレベーターで地上に出る。改札を1か所にするためであるが、橋上駅でなく地下駅とは珍しい。駅舎は白壁に赤茶色の柱等に塗られ丁度やって来た電車とおなじや一。地下改札とこの駅舎は景観に配慮したのかも知れない。



03.三つ目の「九条」で下車
や

04.駅舎と電車の色の組み合わせが一緒

駅から東の秋篠川に向かいコンビニでお握りを買って進むと、川の手前に多くの石碑、石柱、解説板が並んでいる。川の西側のこの辺りには平城宮の西の市場があったと説明している。「西市」、岡山市にも同じ地名、JR 駅が有るぞ。市跡のすぐ後ろ（東側）にも解説板が立ち、ここに西市に物資を運ぶ舟がここに着いた船着き場と書かれている。平城宮の残滓は東大寺や興福寺、春日大社のある奈良市中心部に固まっているが、西大寺地区も都のエリアでその交通の要衝がここ秋篠川の船着き場だったようだ。



05.都の西の市場がここに有ったのだ

06.すぐ東の秋篠川には船着き場が

土手に上がり佐保川との合流点に向かう。北から南に流れる川は船着き場跡のすぐ南で東へと不自然に直角に曲がっている。その訳がやがて分かる。土手道の横にその成り立ちが書かれている。本来真っすぐ南に流れていた川の郡山城近くの部分を城の外堀として流用し、流れを東に人工的に変えたとある。な一るほど合点！合点！



07.秋篠川が不自然に直角に曲がる原因が分かった

川に沿っている県道9号の歩道を東に進むと郡山市のスポーツセンターと称する広い公園、焼却施設、スポーツ施設の有る所の前を通る。その入り口横に「富本銭出土地」と書かれた大きな看板が有る。読んでみるとビックリポイント。これまで「和同開珎」が我が国最古の銭だと教えられてきたがそれは間違いであった。富本銭が最古だと開陳されている。長生きはするものだ。



08.スポーツセンター入り口に有った 絵地図



09.日本最古の銭は「和同開珎」では なかった！

やがて関西本線が川を越える所に到着する。すぐ先が合流点で先日佐保川からこちらを見たので、ここでUターンして遡行開始とする。何度も出会う大和路快速をカシャ。真横から100キロで走る電車を撮るのは難しいぞー。



10.関西本線の橋でUターンし遡行開始

西市まで戻り左岸側の「奈良自転車道」を北に向かう。車の来ない道は最高だが今日は最高気温が30度を超える夏日である。湿度が低いので汗は直ぐに乾き爽快である。アメリカの加州を思い起す気候である。やがて大和郡山市から奈良市に入る。自転車道ではあるが市境界標識も有る。



11.「奈良自転車道」を北に向かう



12.大和郡山市から奈良市に入る

土手に太陽が容赦なく照り付けてくれるが、やがて桜並木も現れ砂漠に水の感じである。木と家の間にこれから向かう「薬師寺」の西塔が見える。これぞ奈良の道である。奈良市のマンホール蓋の絵柄には当然「鹿」が入っている。正面から見ないと鹿の線が細く分かりにくい。「奈良のマンホールはしかと確かめられよ！」



13.桜並木も現れ、彼方には薬師寺の
西塔が見える



14.奈良と言えば鹿でしょう

[続く]

[